HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	日本語の対称詞における出現タイプと機能について
Author(s)	都, 賢娥
Citation	研究論集, 19, 255 (左)-269 (左)
Issue Date	2019-12-20
DOI	https://doi.org/10.14943/rjgshhs.19.l255
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/79820
Type	departmental bulletin paper
File Information	13_rjgshhs_19_p255-270_l.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

10.14943/rjgshhs.19.l 255

日本語の対称詞における出現タイプと機能について

都　　賢　娥

要　旨

本研究は，日本語の会話参加者の聞き手を指す表現である対称詞が，発話や談話のどの位置（position）に現れるのかについて，出現タイプにおける機能の違いを検討し，さらに，その機能が対称詞の種類によって，どのような発話効果を発生させるのかについて考察したものである。日本語の対称詞は，人間関係の種類に比例すると言って良いほどその種類が豊富な方であるが, 本研究では, その中でも代表的なものとされる聞き手のアイデンティティ性を表す「固有名詞：山田・太郎など」，聞き手の社会的役割性を表す「普通名詞：先生・部長など」，会話参加者としての聞き手性を表す「対称名詞：あなた・きみ・おまえなど」の三つの種類を主な考察対象とした。また，談話の中で対称詞が出現する位置に関しては，命題の中に対称詞が現れない「省略タイプ」，命題の内部に助詞を伴う形で出現する「命題内出現タイプ」，命題の外部つまり談話領域に助詞を伴わない形で出現する「命題外出現タイプ」の三つに分けた。そして，この出現タイプによって対称詞がどのように機能するのかを確認した結果, 省略タイプでは対称詞の省略による「間接化機能」，命題内出現タイプでは文脈の中の聞き手を指す「対象指示機能」，命題外出現タイプでは聞き手のことを呼ぶ「呼びかけ機能」としての働きが見られた。特に，対象指示機能と呼びかけ機能においては，固有名詞・普通名詞・対称名詞が持つ性質によって，異なる発話効果が見られた。本研究では，これについて, 日本語の対称詞の種類別性質と出現タイプによる機能との関係から，柔軟かつ多様な発話効果が見られると考える。

1．はじめに

本研究の目的は，日本語の発話や談話の中の聞き手を指す表現である対称詞が，どの位置（position）に現れるのかについて，その出現タイプにおける機能を検討し，さらに，対称詞の種

類の違いによって，同一レベルに見られる機能のどの側面が強調されるのかを明らかにすることである。日本語の対称詞には，「田中・太郎・お姉さん・社長・あなた・そちら・ぼく・かのじょ」など，様々な種類があるため，話し手の選択意図や選択による発話効果に関する語用論的研究が活発に行われている。本研究では，そのような語用論的分析に先立ち，対称詞の種類による特徴を整理し，対称詞が現れる位置の違いによる主な機能を確認する。そして，各タイプから見られる機能が，対称詞の種類の違いに関わらずその機能を保つのか，それとも対称詞の種類に応じて柔軟性を見せるのかについて，用例を基に分析していく。分析する用例は，日本のドラマ（『半沢直樹（以下，半沢）』2013，『地味にスゴイ！校閲ガール・河野悦子（以下，校閲）』2016）から収集したものである。

2．日本語の対称詞について

2.1. 本研究における「対称詞」

まず，日本語の「対称詞」という用語について少し触れておきたいと思う。日本語の中で聞き手を指す表現としては，「山田・太郎」などのような個人の名前をはじめ，「先生・社長」などのような肩書，「あなた・きみ」また「そちら」のような代名詞や指示詞と呼ばれてきたものまで様々なものがあるが，各表現を表す名称から一貫性が見られるようになってからそれほど長くない。特に「わたし・あなた・かれ」などは，鈴木（1973）によると，明治時代に西欧文法にならい，一人称・二人称・三人称代名詞と名付けられた。しかし，西欧言語での人称は，動詞との一致（agreement）を求める文法範疇としてのものであり，日本語には人称としての役割を担うことばがあるだけで，それに文法的規則が適用されるわけではないため，人称代名詞という用語をそのまま使っても良いのかという疑問が浮かび上がってくる。鈴木（1973）は，日本語の「わたくし・ぼく」「あなた・きみ」などを人称代名詞とすることは，日本語と多くの点で構造の違う諸言語の研究から導かれた説明原理を，無批判に鵜呑みにして取り入れた結果であって，日本語に見られる言語的事実とは相容れない誤りであると指摘している。また，「わたし」や「あなた」などを総称する新たな用語を設けてはいないが，人を表すことばとして，自称詞（話し手が自分自身に言及することば），対称詞（話し手が話の相手に言及することば），他称詞（話し手が話に登場する第三者に言及することば）という三つの分類を設けている。この分類は，それまで用いられていた一人称・二人称・三人称という用語から分かるように，日本語の中で人を表すことばの観点を人称から話し手と聞き手という会話参加者の方に移したと言える。そこで，本研究では，鈴木（1973）に従い，会話参加者である聞き手を指す表現を「対称詞」とする。

一方，田窪（1997）では，人称代名詞という範疇は性数格の一致のある言語において，その一致特性のみを担う範疇であるため，名詞と区別された統語範疇としての代名詞は閉じられた

語類であるのに対して，日本語の「わたし・あなた」などの人称を表す語類は，一致を求めず，必要であれば「ミー・ユー」などのように外来語からの流入も許す点から開かれた語類であり，他の名詞類と区別する文法的理由はないと述べている。また，鈴木（1973）での自称詞・対称詞・他称詞の中で，「わたし・あなた・かれ」などの語類を「人称名詞」としている。しかし，今まで見てきた通り，日本語には人称という文法範疇がない点から人称名詞という用語の使用に妥当性があるのかを議論すべきだと思われるが，ここでは深く立ち入らず，人称名詞という用語の代わりに，自称詞の中の「わたし・ぼく」などの表現を「自称名詞」，対称詞の中の「あなた・きみ・おまえ」などの表現を「対称名詞」，他称詞の中の「かれ・かのじょ」などの表現を「他称名詞」と呼ぶことにする。

2.2. 対称詞の種類と特徴

日本語の対称詞の種類は，話し手と聞き手の人間関係の数だけあると言っても良いほどそのバリエーションが豊富であると言われている。さらに，「ぼく」のような自称詞や，方言差があるようだが「かれ・かのじょ・自分[1]」のような他称詞の対称詞的使用が見られるのは日本語の大きい特徴だとも言える。本研究では，その中でも代表的なものとして挙げられる，聞き手の名字や名前を表す「固有名詞」と，聞き手の社会的役割を表す「普通名詞」，そして「あなた・あんた・きみ・おまえ」などの「対称名詞」を中心に，各種類の特徴について確認する。

まず，固有名詞は，定記述（definite description）としての用法を持つと言われている。田窪（1997）では，定記述について「その談話領域における人物をその記述によって同定しており，そのため，発話の中の固有名詞が聞き手を指すこともあれば，そうでない場合もある」と述べており，これは普通名詞の場合も同様であるとしている。一方，他の対称詞に比べて，固有名詞は「ちゃん・くん・さん・さま」などのような様々な敬称を付加することができる。そして，その中では丁寧度または距離感の違いが見られるため，敬称の選択によって話し手と聞き手との関係を調節できるという特徴があると言える。また，「佐藤先生・佐藤主任」などのように，固有名詞に肩書としての普通名詞を付けることがあるが，これは使用対象が目上の人物[2]に限られる場合が多いため，敬称の機能を帯びることになると言える。このような「固有名詞＋敬称」の形が，対称詞の中のどの種類に属するのかについては，後に検討する。

次に，対称詞としての普通名詞は，大きく家族関係を表す「お父さん・お姉さん」などの親

---

[1] 田窪（1997）では，他称詞の「自分」が関西地域では対称詞的使用が一部見られて，中国地方や軍隊用語では自称詞的使用が見られると述べているが，最近は，特に自称詞としての使用に関しては，地域や属性に関わらず増えているように思われる。

[2] 鈴木（1973）では，例えば先生が学生を「学生さん」と呼ぶように，目上の人物が目下や同等な人物に対して普通名詞が使えることは，対概念としての相手がなく，一種の職業（資格）名として考えられるためだと述べている。

族名詞と，社会的地位・肩書を表す「部長・先生」などの役職名詞に分けられると思われる。普通名詞の最も大きい特徴は，この親族・役職名詞という用語から分かるように，ある「役割」を表す点にあると考えられる。滝浦（2008）では，普通名詞による呼称は，その人を呼んでいるのではなく，その人に付与された役割を呼んでいるため，上位者に対しても使えるとしている。そして，上位者に対する日本語の呼称は，このような「役割性」と，聞き手自体ではない役割を表す点から「間接性」と緊密に関係していると述べている。その一方，固有名詞は聞き手のことをある程度特定できる点から，個人の「アイデンティティ性」を表すと言える。

最後に，日本語の対称名詞は，相手を指さすことができる点から，直示（deixis）の性質を持つと言われている。田窪（1997）では，話し手・聞き手という対話の役割だけが指定されている直示的な語（その場にあるのを指すこと）であると述べており，そこから固有名詞・普通名詞が記述によってたまたまその発話場面で「田中・課長」に当たる特定の人物を指示対象として決めているのに対し，「わたし・あんた」などは直示行為によって「話し手自身・聞き手」を指示対象として決めているという違いがあると述べている。また，竹内（2003）では，本研究での対称名詞に当たる語類について，一人の人物に限定している性質が強いという点から対持的性質[3] を持つとしており，対称名詞自体に固有名詞のような特別な意味はないが，対話の相手をダイレクトに指し示すと述べている。つまり，対称名詞は聞き手のアイデンティティや，属性を表すのではなく，会話参加者としての「聞き手性」を表すと考えられる。

以上，本研究の考察対象となる日本語の対称詞とその特徴を（1）にまとめる。なお，対称詞としての普通名詞には親族名詞と役職名詞があると述べたが，親族名詞は家庭内における個々の使い方があると思われるため，本研究では，より普遍的な使用が見られると思われる役職名詞のみを考察対象とする。

（1）本研究における日本語の対称詞の種類と特徴

1）固有名詞：聞き手の「アイデンティティ性」を表す。

2）普通名詞（役職名詞）：聞き手の「役割性」を表し「間接性」を持つ。

3）対称名詞：会話参加者としての「聞き手性」を表す。

[3] 竹内（2003）では，（集団の中で）「岡田君，彼女とどうなった？」のように，対称詞は集団の中の相手にも使えるが，その目的となる人物は必ず一人だけで，話し手が会話を求める相手であることから，対称詞は一対一の会話の中で聞き手に向かって発信される「対持性」を持つと述べている。そして，「あなた・きみ」のようなことばはその語自体が対持性を有するため，固有名詞や普通名詞などを対称詞として用いるときよりその性質が一層強く現れるとしている。

3．対称詞の出現タイプによる機能の違い

次に，日本語の発話や談話の中で，対称詞が出現する位置（position）による三つのタイプと，各タイプにおける機能が対称詞の種類によってどう違うのかについて考察する。

3.1. 省略タイプと間接化機能

第一に，対称詞が現れない，省略のタイプが考えられる。日本語記述文法研究会（2009）では，省略を「文法上必要とされる格成分を発話から省くことで指示が行われること」だと定義している。さらに，省略には，一定の条件を満たすものがほぼ義務的に省略される義務的省略と，前後の言語文脈から復元可能な格成分が省略される言語文脈による省略があると述べている。そして，会話参加者である聞き手が省略されるのは義務的省略の場合が多く，以下の（2）から（4）のように命令・禁止といった聞き手に働きかける行為要求表現や，授受表現，敬語の尊敬表現などがあり，文脈が特定されていなければ，省略された格成分の指示対象は聞き手と解釈されると述べている。つまり，日本語の中で対称詞の義務的省略は，その条件下では省略の形が無標であると言える。一方，（5）のような，文脈によって省略された内容が復元きでる場合での聞き手の省略もよく見られると思われる。

（2）「(Ø は）夏休みの宿題は早めに終わらせなさい。」（命令）
（3）「(Ø が）ケーキ買ってきてくれて，ありがとう。」（授受）
（4）「(Ø は）何時ごろ我が家にいらっしゃいますか。」（尊敬）
（日本語記述文法研究会 2009：44）

（5）出版社の編集部を希望していた聞き手が校閲部に採用された理由を説明しながら，聞き手の採用を決めたのは校閲部の部長である自分だと言っている場面
「私が，（Ø を）取ったんです。」『校閲』1話

それでは，以上の対称詞の省略が，どのような機能を持つのかを確認するため，（2）から（5）までの省略された部分を復元した場合の発話効果を見てみる。

（2′）「あなたは夏休みの宿題は早めに終わらせなさい。」
（3′）「＊山田さんがケーキ買ってきてくれて，ありがとう。」
（4′）「先生は何時ごろ我が家にいらっしゃいますか。」
（5′）「私が，あなたを取ったんです。」

（2′）から（4′）までは，元々省略された方が無標である対称詞を一々使っていて，くどい感じを与える。特に，（4′）に関しては，滝浦（2013）でも説明しているように，聞き手（特に目上）について触れることに対するタブーの文化が過去からあり，それが現代でも残存している日本語の敬語システムでは，間接性が欠けることになって失礼になる可能性が高い。ただし，（3′）の場合は，省略された部分が顕在すると非文になるため，対称詞を用いるとするならば「山田さん，ケーキ買ってきてくれて，ありがとう。」のように命題の外側に現れることになる。一方，（5′）での対称詞の使用は義務的省略ではないため，（2′）と（4′）のようなしつこい感じはしないが，命題の内容自体の影響で（５）だけでもすでに恩着せがましく感じられる可能性が高い。さらに，そこにわざわざ対称詞を明示することによって，聞き手の採用に自分の社会的地位を使ったことを述べるのは，自分側の方に地位と恩恵があるというスタンスを示しているように解釈される可能性が高いと思われる。そこで，（５）での省略は，文脈上対称詞の出現が必要ないという理由もあれば，聞き手への恩恵による負担を軽減するため，対称詞を意図的に省略しているとも考えられる。これは，聞き手への間接化ストラテジーだとも言えると思われる。

以上から，日本語の対称詞の義務的または文脈上の省略は，対称詞の使用による有標性を避け，聞き手に直接触れない「間接化機能」を持つと言える。

3.2. 命題内出現タイプと対象指示機能

第二に，対称詞が命題の内部で助詞を伴う形で現れるタイプが考えられる。これは，鈴木（1973）で述べている，ある文の主語または目的語として用いられたことばが，内容的には相手を指している「代名詞的用法（referential use）」に当たる出現タイプだと言える。そしてこれは，（６）と（７）の例のように，対称詞が命題の中の対象（聞き手）を指示する機能を持つと言える。また，命題内出現タイプでは対称詞が文脈と関わるため，対象指示機能における語用論的解釈が考えられる。

（６）「河野さんのおかげで，おしゃれは気分を高揚させるものだと知りました。」
（７）「校閲とは，本造りを陰で支える存在です。（中略）
あなたのように作家と直接会うべきではないし，ましてや編集者のように内容に口を挟み，新たなアイデアを出すなんてもってのほかです。」（都 2019）

山岡（2000：19）は，印欧諸語や中国語では，この出現タイプで使える表現が人称代名詞に限られるのに対して，日本語では固有名詞やをはじめ「ぼく」や「かのじょ」などのような，本来は話し手または第三者を指す表現まで多用される特徴があると述べている。そして，日本語の対称詞を待遇表現として捉えることができるのは，このような特徴が影響していると思われる。聞き手を表す数多くの選択肢の中で，話し手は聞き手との社会的または心理的関係を判

断し，その中の一つを選ぶことになる。そして，選択された表現が持っている性質が，対象指示機能において聞き手のどの側面を強調しているのかが明示されることになり，選択意図や発話効果が解釈できるようになるのだと考えられる。ただし，命題内出現タイプでは，対称詞が文脈と関わるため，可変的な解釈が得られる場合もあると言える。

そこで，以下では，本研究での考察対象となる固有名詞・普通名詞・対称名詞が持つ性質が，対象指示機能において聞き手のどの側面を指示し，それが文脈によってどのように解釈されるのかについて考える。

3.2.1. 対称詞の種類による対象指示機能の発話効果

同じ文脈の中での対称詞の種類による違いを考察した研究として，金井（2002，2003）や先述した滝浦（2008）などがある。これらで指摘されているように，普通名詞は定性を有するが，聞き手の社会的役割を表すため，固有名詞よりは間接性を持つことになる。一方，対称名詞は，聞き手を指さすことができる点から，直示性を持つ表現である。金井（2002）では，同じ命題において固有名詞や普通名詞の代わりに対称名詞を用いることは，直示性が強まって失礼になる可能性が高いと述べている。これについて，都（2019）では，固有名詞が聞き手のアイデンティティ性を表すのに対して，対称名詞は特定の個人ではない聞き手としての役割（聞き手性）を表す点から，命題の内容によっては選択の適切性が相対的に評価される場合があることを指摘している。そして，Brown & Levinson（1987）のポライトネス理論[4]の観点から，命題の内容と聞き手のフェイスとの関係を考慮した対称詞の選択について分析している。つまり，対称詞の種類による性質の違いが，文脈という変数の中では，表現の選択によって可変的な発話効果を導くと言える。ここで，（6）と（7）の例を一部修正[5]してもう一度見てみる。

（6′）会社の同じ部署の後輩の社員が，先輩の社員に感謝の気持ちを言っている場面

---

[4] Brown & Levinson（1987）のポライトネス理論では，我々は社会的欲求であるフェイス（face）を持っており，それは「他者によく思われたい・認められたい」という共感を求めるポジティブ・フェイス（positive face）と，「他者に邪魔されたくない」という不干渉を求めるネガティブ・フェイス（negative face）に分けられるとしている。そして，我々の発話は話し手と聞き手のフェイスを脅かすFTA（Face Threatening Acts）になり得るため，各フェイスに配慮した言語方略としてのポライトネス・ストラテジー（politeness strategy）を設けている。

[5] 都（2019）では，同一人物に対する固有名詞と対称名詞「あなた」の使用を比較しているが，各表現の使用対象（聞き手）を，話し手の「あなた」の使用がより自然となる「目下の人物」としている。本研究では，固有名詞，普通名詞，対称名詞の違いを比較するため，固有名詞と普通名詞が使える聞き手として「目上の人物」（6′の聞き手に当たる）を，固有名詞と対称名詞が使える聞き手として「目下の人物」（7′の聞き手に当たる）を設定している。なお，（8）では，普通名詞と対称名詞の使用を比較するため，目下の人物に対する普通名詞の使用が比較的自然である学校の教師という職業における発話を作っている。

「藤岩さん/先輩のおかげで，おしゃれは気分を高揚させるものだと知りました。」

（7′）会社の同じ部署の先輩の社員が，後輩の社員に仕事の仕方について忠告している場面

「校閲とは，本造りを陰で支える存在です。（中略）

河野さん/あなたのように作家と直接会うべきではないと思います。」

（都 2019 一部修正）

（8）学校のベテランの教師が，新人の教師に学校生活の現実について忠告している場面

「先生/あなたが思うほど生徒たちは甘くないです。」

（6′）は，聞き手の「他者に認められたい・褒められない」というポジティブ・フェイスを満たす内容を含んでいる命題である。そして，下線部の二つの種類の対称詞は，命題の中の聞き手である会社の先輩を指示する機能として働いている。ここでの固有名詞の使用は，聞き手のポジティブ・フェイスを満たす命題内容と聞き手のアイデンティティを直接リンクさせることによって，聞き手のポジティブ・フェイスの保持をさらに強化していると解釈できる。それに対して，普通名詞の使用は，先述したように社会的役割性を間接的に伝えるため，固有名詞の場合よりは間接的な対象指示として機能すると考えられる。そのため，命題の内容自体は聞き手のポジティブ・フェイスを満たしているが，固有名詞の使用の場合よりは聞き手のフェイスを保持する発話効果は弱まることになると言える。そして，固有名詞と普通名詞のどちらかを選択する際，もし命題の内容が（6′）のように聞き手のフェイスを保つものではなく，フェイスを脅かす内容を含んでいる場合，間接性を持つ普通名詞を選択する方が，より FTA の度合いを弱める可能性があると考えられる。

一方，（7′）は聞き手のポジティブ・フェイスを脅かす内容を含んでいる命題である。ここでの固有名詞の使用は，先述のように命題の内容と聞き手のアイデンティティを直接リンクさせるため，さらに FTA の度合いが強まる可能性があると思われる。それに対して，対称名詞の使用は，個人としての聞き手ではない，発話における聞き手としての役割だけを表しており，さらに「あなた」が持つ距離を置く機能によって，固有名詞の使用に比べては間接的な発話効果が考えられる。また，固有名詞と対称名詞のどちらかを選択する際，もし命題の内容が聞き手のフェイスを保持する内容である場合では，個人としての聞き手を特定する固有名詞を使用する方がより適切になることが考えられる。

そして，（8）は，同一文脈内での普通名詞と対称名詞を比較するための作例だが，同一人物に対して普通名詞と対称名詞を用いる場合は結構特殊な場面に限られると思われる。それは，対称詞の使用における規範上，目上の人物への対称名詞の使用と，目下の人物への普通名詞の

使用は，喧嘩や非難などのような特殊な場面で見られるためである。そこで，目下への普通名詞の使用が比較的自然である学校の教師という職業を取り上げ，（８）のような同一文脈における普通名詞と対称名詞の使用を比較した。（８）の命題は，(7′) のように聞き手のポジティブ・フェイスを脅かす内容を含んでいる。そして，ここでの普通名詞の使用は，ほとんどの構成員に「先生」という同じ役職名が使われる無標の形であることと，普通名詞自体が持つ間接性と役割性によって，聞き手への FTA の度合いを軽減させると思われる。それに対して，対称名詞の使用は，聞き手を特定しないが，学校という場における「先生」という呼び方の無標性に対する対称名詞の有標性が際立つことと，対称名詞が持つ直示性によって普通名詞に比べては適切性が弱まると思われる。しかし，両者も固有名詞の使用に比べると，聞き手への間接化のストラテジーとして解釈できると言える。

以上から，命題の内部で助詞を伴う形で出現する対称詞は，命題の聞き手を指す「対象指示機能」を持つが，対称詞の種類の違いと命題の文脈との関係によって，異なる解釈が得られると言える。

3.3. 命題外出現タイプと呼びかけ機能

第三に，対称詞が命題の外側に出現するタイプが考えられる。これは，鈴木 (1973) での「呼格的用法（vocative use)」に当たるタイプであり，このタイプで見られる対称詞は，いわゆる呼びかけに相当する。また，命題の外側に出るため，命題内出現タイプの場合とは違って命題の文脈とは関わらず，談話の単位でその機能が関わってくると言える。鈴木（1973）では，上記の呼格的用法について，相手の注意を引きたいときや，相手に感情的に訴えたい場合などに用いられると述べている。本研究では，これを「呼びかけ機能」と呼ぶことにする。

油井（2007）では，Biber et al.（1999）で説明されている呼びかけの三つの機能について，日本語と英語の場合を比較している（ここでは，日本語の場合のみを見ていく）。Biber et al.（1999）での呼格の三つの機能は（９）のようである。

（９）a. getting someone's attention：注意喚起
　　b. identifying someone as an addressee：聞き手としての確認（位置付け）
　　c. maintaining and reinforcing social relationship：社会的関係の維持・強化

鈴木（1973）でも述べているように，(9a) は日本語でよく見られるいわゆる注意喚起の機能である。また，(9b) は話し手が相手を呼ぶことによって会話の聞き手として位置づける機能であり，これも日本語でよく見られる。油井（2007）は，英語の訳ではあるが，(9a) と (9b) の働きが期待される例として（10）を挙げている。

（10）ミシェル：「ステフお姉ちゃん[6]，母音ってなあに？」
　　ステフ：「子音じゃない音のこと。」　（油井 2007：23）

また，油井（2007）は（9c）の社会的関係を維持・強化する機能について詳しく説明しており，この場合，日本語では聞き手の名前だけを呼ぶのはわざとらしく聞こえることが多く，名字に「ちゃん・くん・さん」などの敬称やタイトルを付加することによって，話し手と聞き手の距離と共感の程度を示し，聞き手に自分の感情を共有したい場合や，話し手と聞き手の間にある社会関係を新たに提示する機能を果たすとしている。この機能については，呼びかけによって聞き手の職責を強く言及し，話し手と聞き手との社会関係を強化する（11）のような例が考えられる。つまり，日本語では呼びかけ語の形として，固有名詞に敬称や肩書としての普通名詞を付加した形が話し手と聞き手との社会的関係をより明確に示すと言える。また，固有名詞に「ちゃん・くん・さん」などの敬称が付加される現象は英語などの諸言語でも見られるが，親族名や会社での役職名がそのまま付加される現象は日本語の特徴だと言える[7]。

（11）銀行の支店長が融資課長に対して上から目線で強圧的な言い方をしている場面
　　「そうやって自分のミスを他人のせいにするのはよくないですねえ，半沢融資課長！」
　　『半沢』 3 話

なお，日本語では「あ，山田さん。」や「あ，先生。」などのように，対称詞を使った呼びかけ自体が挨拶になる場合もよく見られるが，これは広く取って（9a）に当たると思われる。

3.3.1. 対称詞の種類による呼びかけ機能の連続性

それでは，（9）での呼びかけの三つの機能は，どの種類の対称詞でも同じく見られるのだろうか。油井（2007）による説明から，注意喚起としての（9a）の機能と，相手を聞き手として認識する（位置付ける）（9b）の機能は，（10）のように一つの表現の中で同時に見られることが分かる。つまり，呼びかけの三つの機能の内，特に（9a）と（9b）においては連続性が見られると考えられる。そこで，以下では，日本語の対称詞の種類によって，（9a）と（9b）に加え，社会的関係を維持・強化する（9c）の機能まで連続的に見られるものがあるのかについて考察する。

---

[6] 英語では，聞き手の名前に親族名詞を付けることはないため，英語版では「Steph」だけになっている。

[7] 朝鮮語でも似たような現象が見られる。ただし，普通名詞が付加される場合，社会的上下に加え，年齢の上下が深く関わる点，「先生＋さま」のように普通名詞にさらに敬称が付く点など，日本語とは異なる面が見られる。

まず，呼びかけとして固有名詞が使われた場合を見てみる。

（12）出版社の校閲部の部長が社員に忠告している場面
「河野さん，くれぐれもこの景凡社の一員であることは忘れずに，行動しましょうよね。」 『校閲』 4 話

（13）出版社の営業部の部長が，編集部の社員が提案した対策について疑問を質している場面
「貝塚，おまえ本気で言ってんの？」 『校閲』 2 話

（12）と（13）は，それぞれ社会的上位者が下位者を固有名詞で呼んでいる場合である。聞き手のアイデンティティ性を表す固有名詞を使った呼びかけは，聞き手を呼ぶという行為による注意喚起の（9a）と，相手を会話参加者としての聞き手に位置付ける（9b）の機能が強く見られると考えられる。さらに，（12）と（13）の話し手が社会的上位者である点から，社会的関係を維持・強化する（9c）の機能が見られるようにも思われるが，それが機能するには人間関係という文脈を見る必要があるため，呼びかけとしての表現自体による機能だとは言いにくいと考えられる。ただし，（12）のように固有名詞に「さん」のような敬称を付けた場合，固有名詞のみの場合よりは（9c）の機能が強まると考えられる。以上から，固有名詞のみの形の呼びかけでは，注意喚起と聞き手としての位置付けの機能が連続的に見られると言える。

次に，呼びかけとして普通名詞が使われた場合を見てみる。

（11）銀行の支店長が融資課長に対して上から目線で強圧的な言い方をしている場面
「そうやって自分のミスを他人のせいにするのはよくないですねえ，半沢融資課長！」 『半沢』 3 話（再掲）

（14）出版社の校閲部の社員が部長の行動について疑問を質している場面
「部長！　なぜ河野さんを止めないんですか！」 『校閲』 4 話

先述のように，普通名詞は社会的役割性を表すため，（11）と（14）での呼びかけから（9a・b・c）の機能が全て見られることが分かる。特に，（14）では，話し手と聞き手との社会的関係の強調に加え，聞き手の上位者としての役目を強調し，感情的に訴えているとも考えられる。また，（11）は，先述のように下位者に対して社会的関係を強調している場合であるが，この場合の呼びかけ語は固有名詞に普通名詞が付加された形であり，それによって固有名詞や普通名詞が単独で使われた場合に比べて，社会的関係をより強く明示することになると言える。そしてこれは，固有名詞だけでは聞き手の社会的位置が把握しにくいことと，普通名詞だけでは間接性が高まって同じ役職名で呼ばれている人物同士における区別が困難になるためであると考

えられる。以上から，普通名詞の使用による呼びかけでは，（9a・b・c）の三つの機能が全て見られて，さらに「固有名詞＋普通名詞」の形では（9c）の機能がより強まると言える。一方，2章で述べたように，固有名詞に肩書としての普通名詞が付く場合，これは目上の人物への使用に限られる場合が多いため敬称的機能が見られるが，（11）の場合は，目下の聞き手の職業を強調しているだけで，敬意を示しているとは言いにくい。つまり，普通名詞が敬称として働くのは「固有名詞＋さん[8]」のように特定の人物に敬意を示す場合であり，さらに普通名詞の部分からその人物の社会的役割を表していると言える。本研究では，このような「固有名詞＋普通名詞」は，「固有名詞＋敬称」として扱い，固有名詞の一種として考える。その一方，（11）のように敬意がない場合には，その人物の職責つまり社会的役割を強調していると思われるが，それが特定の個人の職責を表している点には違いがないため，筆者はこれも固有名詞の一種として捉えた方が対称詞の分類上効率的なのではないかと考えるが，これらについては今後さらなる検証を行う必要があると思われる。そのため，現段階では，普通名詞と敬称との関係や，固有名詞に敬称または普通名詞を付加することによる丁寧度の調節などを議論するに先立ち，「固有名詞＋普通名詞」の形で（9c）の機能が強く見られるという点に重点を置きたいと思う。

最後に，呼びかけとして対称名詞が使われた場合である。

（15）銀行の常務が支店長の出向について皮肉を言っている場面
「君，英語は得意ですか？」　『半沢』 5 話

（16）出版社の校閲部の社員が，無理をいう編集部の社員に驚いている場面
「貝塚さん，あなた！」　『校閲』 6 話

（15）では，「きみ」という対称名詞が話し手と同等または目下の人物に使う表現である点から，文脈がなくても話し手と聞き手との関係がある程度予想できる。（16）の「あなた」は他の対称名詞に比べて比較的使用対象が広い方ではあるが，一般的には「きみ」と同じく話し手と同等または目下の人物に使う場合が多い。つまり，呼びかけとして対称名詞が使われた場合，話し手と聞き手との上下関係がある程度把握できるため，普通名詞の場合と同じく（9a・b・c）の呼びかけの三つの機能が全て見られると考えられる。ただし，固有名詞に普通名詞が付加された形のように具体的な社会的地位における上下関係の把握までには限界があると考えられ

[8] 日本語では「アップルさん」のように，特定のブランド名に「さん」を付ける場合も見られる。これも固有名詞に敬称を付けた形になるが，個人の名前の場合とはその敬称の機能がまた違ってくると思われる。本研究ではこれについて言及の段階に留めるが，今後詳しく論じる必要があると思われる。

る。この点から，呼びかけの三つの機能における連続性が最も強く見られるのは，「固有名詞＋普通名詞」の形の場合だと言える。

以上から，Biber et al.（1999）による呼びかけの三つの機能において，日本語では連続的な働きが見られる場合が多く，その連続性には対称詞の種類によって程度差が見られることが確認できた。その中でも，三つの機能の連続性が最も強く見られるものは，「固有名詞＋普通名詞（役職名詞）」の場合だと言える。これは，固有名詞に社会的役割を表す普通名詞の性質が加わることによって，（9c）の機能がより強く働くようになったと言える。

4．出現タイプと対称詞の機能との関係

最後に，本研究での日本語の対称詞の出現タイプと，その機能に関する考察をまとめると，以下の表１のように示すことができる。

表１　日本語の対称詞の出現タイプと機能

<table>
<tr><th rowspan="10">対称詞</th><th>出現タイプ</th><th>発話・談話機能</th><th colspan="2">対称詞の種類による違い</th></tr>
<tr><td rowspan="3">出現せず
（省略）</td><td rowspan="3">間接化</td><td>固有名詞</td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>普通名詞</td></tr>
<tr><td>対称名詞</td></tr>
<tr><td rowspan="3">命題内</td><td rowspan="3">対象指示</td><td>固有名詞</td><td>アイデンティティ性の指示</td></tr>
<tr><td>普通名詞</td><td>間接的な社会的役割性の指示</td></tr>
<tr><td>対称名詞</td><td>会話参加者としての聞き手性の指示</td></tr>
<tr><td rowspan="4">命題外</td><td rowspan="4">呼びかけ</td><td>固有名詞のみ</td><td>注意喚起，
聞き手としての位置付け</td></tr>
<tr><td>固有名詞＋
敬称／普通名詞</td><td rowspan="3">注意喚起，
聞き手としての位置付け，
社会的関係の維持・強化</td></tr>
<tr><td>普通名詞</td></tr>
<tr><td>対称名詞</td></tr>
</table>

表１から，日本語の対称詞が発話や談話の中で現れる位置によって，出現のタイプが省略・命題内出現・命題外出現の三つに分けられることが分かる。そして，各タイプにおける主な機能として，省略による間接化機能，命題内出現による対象（聞き手）を指示する機能，命題外出現による呼びかけ機能があることが確認できる。一方，本研究の考察対象となる対称詞は，固有名詞・普通名詞（役職名詞）・対称名詞だが，各表現の性質として，順番に聞き手のアイデンティティ性，聞き手の社会的役割性，会話参加者としての聞き手性を表すと言える。そして，これは命題内出現タイプでの対象指示機能における発話効果の違いと，呼びかけの三つの機能の連続性に深く関わることが分かる。

以上のような考察から，対称詞の出現タイプによる機能の違いと，対称詞の種類によって一つの機能から多様な解釈につながる柔軟性が見られることが確認できたと考えられる。

5．まとめと今後の課題

本研究では，日本語の対称詞の出現タイプとその機能について検討し，対称詞の種類によって，出現タイプにおける機能の中のどの側面が強調されるのかについて考察を行った。このような違いは，他の言語に比べて対称詞のバリエーションが豊富な方である日本語の特徴によるものであり，これについては，話し手の選択意図（発話意図）に関する説明が今後必要となると思われる。また，固有名詞における敬称または普通名詞の付加による丁寧度の調節や，「普通名詞と対称名詞」のような，同一人物への両方の使用が一般的ではない対称詞間の比較などに関しても，人間関係という観点からより詳しく論じる必要があるが，それらに関しては，今後さらに考察を深めていきたいと思う。

（と　ひょな・言語文学専攻）

参考文献

金井勇人（2002）「失礼さという観点から見た二人称指示の体系」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』3（48），pp.83-91

金井勇人（2003）「普通名詞による二人称指示 ── 間接化というストラテジー ──」『国語学研究と資料』26，pp.13-23

鈴木孝夫（1973）『ことばと文化』岩波書店

滝浦真人（2008）『ポライトネス入門』研究社

滝浦真人（2013）『日本語は親しさを伝えられるか』岩波書店

田窪行則（1997）「日本語の人称表現」田窪行則（編）『視点と言語行動』くろしお出版，pp.13-44

竹内直也（2003）「現代日本語における対称代名詞の特異性 ── 人称詞の観点から ──」『学習院大学国語国文学会誌』46，pp.1-12

都賢娥（2019）「発話の中の聞き手指示方法の選択に関する語用論的分析 ──「あなた」と「固有名詞」との選択を中心に ──」『日本語用論学会第 21 回大会発表論文集』14，pp.81-88

日本語記述文法研究会（2009）『現代日本語文法 7　第 12 部談話・第 13 部待遇表現』くろしお出版

山岡政紀（2000）『日本語研究叢書 13　日本語の述語と文機能』くろしお出版

油井恵（2007）「日本語および英語における対称詞の機能：ポライトネスとの関連性」『駿河台大学論叢』33，pp.19-30

Biber, Douglas, Stig Johansson, Geoffrey Leech, Susan Conrad, and Edward Finegan. 1999. *Longman Grammar of Spoken and Written English.* Edinburgh Gate: Pearson Education Ltd.

Brown Penelope and Stephen C. Levinson. 1987. *Politeness: Some universals in language usage.* Cambridge University Press（田中典子ほか訳（2011）『ポライトネス：言語使用における，ある普遍現象』研究社）

用例

TBS テレビ『半沢直樹』（2013）
日本テレビ『地味にスゴイ！校閲ガール・河野悦子』（2016）